

落語で学ぼう後見人！

NPO法人ライフアンドガーディアンズ



事業概要

後見ってことばは、よく耳にしますが、分かりにくいという声を聞きます。後見人ってなに？必要なこと？自分の気持ちを分かってくれる？成年後見制度の「よくわからない」を「なるほど」に。落語から楽しく学びます。

助成予定 110,000 円



落語で笑いが響きわたりました



落語家 桂ひな太郎さん



トークセッションでは、経験談や意見などが話されました

10月28日(土)、「落語で学ぼう後見人！」が伝統芸能館(岡町北)で開催されました。

第1部は、落語「後見爺さん」。主人公である、そそっかしい爺さんのところに、甥が母親のことで相談に訪ねてくるところから話が始まります。母親が認知症になったことや騙されて高額の商品を買わされたことなどを聞いた爺さんと二人で近所に住む弁護士に相談に行くのですが、そそっかしさから、話も半分しか聞かずあちこち脱線します。最後は弁護士から、成年後見制度のことを聞き・と進んでいきます。爺さんのそそっかしさを笑いながら、制度のことを知ることができるようになっています。

続く第2部は「経験者と語る成年後見本音トーク」。後見人の経験談に参加者は何度もうなづいていました。

「後見爺さん」は、制度ができたにもかかわらず、なかなか広まらないとの相談を受け、13年ほど前に創作しました。制度については、今自分が自身が必要なくても、知っておくことで、誰かに伝えられると思っています」と桂ひな太郎さん。NPO法人ライフアンドガーディアンズ代表の山口崇さんは「落語で成年後見制度をPRしたのは、高齢者にも比較的なじみがあることと、わかり易い内容で伝えてもらえるからです。アンケートでは『落語を聞きながら、制度のことが知ることができてよかった』などと言った感想が寄せられました」。

催し終了後は、会場で相談会も設けて、制度の理解を個別に深めてもらうことができるとも。成年後見制度を身近なものと感じてもらえる機会になったようです。